

飼育下キリンの亜成獣における春機発動前後の行動的变化

○川口芳矢、宮本知佳、田島俊一郎、渡辺海咲

よこはま動物園では、オス 1 頭 (No.3♂ : 2014 年 12 月 30 日生)、メス 2 頭 (No.1♀ : 2012 年 7 月 1 日生、No.2♀ : 2013 年 12 月 1 日生) のキリンを飼育管理している。No.1♀及び No.2♀は 2014 年 11 月 6 日にグラディス・ポーター動物園 (アメリカ) から、No.3♂は 2015 年 11 月 27 日にライオンカンントリーサファリ (アメリカ) からそれぞれ来園し、当初は 3 頭とも性成熟に達していない幼〜亜成獣であった。2017 年 4 月 11 日に No.3♂から No.1♀へ、2018 年 12 月 14 日には No.3♂から No.2♀へとそれぞれ初めてマウントが確認され、以降キリンの発情周期とされる 14 日間程度の間隔で観察されるようになったため、春機発動と考えられた。また、岐阜大学と行っている糞中の性ホルモン動態を確認する共同研究においても、糞中のプロジェステロン濃度の周期的な変動が確認された。最初のマウントを確認する前に、特に No.2♀では残餌の増加や出舎を渋るといった行動的な変化を確認しており、糞中の性ホルモン動態と比較して関連を考察する。